

基本目標

郷土を担い学びあう人を育むまち

「生きる力」を身につけた未来を担うひとづくり

誰もが学べる生涯学習のまちづくり

スポーツに親しむまちづくり

郷土の文化・伝統に親しむまちづくり



1

「生きる力」を身につけた未来を担うひとづくり

Yatsushiro city

【13】

学校教育の充実と 教育環境の整備

関連 SDGs



施策の概要

本市では、次代を担う子どもたちが、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするために、一人一人の子どもに応じた、きめ細かな、魅力ある教育を推進するとともに、安全・安心で、質の高い教育環境を整備していきます。また、義務教育9年間を見通した「八代型小中一貫・連携教育」を推進し、子どもたちの一人一人の「生きる力※」を育てていきます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
「授業がわかる」と思っている子どもの割合	小：90.4% 中：84.8%	小：93.0% 中：88.0%
小・中・特別支援学校におけるICT教育の環境整備が十分に行われ、充実していると感じる保護者の割合	-	60.0%
学校情報化優良校の認定校の割合	0%	100%
幼稚園、小・中学校施設の安全性や快適性が確保されていると感じる保護者の割合	55.3%	61.2%
小・中学校トイレの洋便器率	41.0%	66.9%

※生きる力…知・徳・体のバランスのとれた力のこと。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の知・徳・体をバランス良く育てることが大切となっている。

施策の方向

(1) 幼児教育の充実

[現状]

- 就学前での学びを小学校での学びにつなぎ、伸ばすため、「幼・保等、小、中連携」に取り組んでおり、各学校では計画的に交流活動などを行っています。
- 小学校との連携カリキュラムは、中学校区の連絡協議会の中で位置づけを行い実施しています。また、小学校のスタートカリキュラムの内容を幼稚園へ提供する等各校区で工夫した取組を行っています。

[課題]

- 幼児教育については、引き続き「生きる力」と基礎を育む教育を充実させることや、就学前教育と学校教育の連携の強化が求められています。
- 引き続き「幼・保等、小、中連携」を充実させる必要があります。

[施策の内容]

- 子どもの発達や学びの連続性を考慮した幼・保等、小、中の連携カリキュラムを作成し、子ども同士の交流や職員同士の連携を行います。
- 幼稚園教育要領に基づき幼児期の教育・保育、地域の子育て支援及び質の向上を進めます。
- 幼、小の教職員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）※を共有するなど小学校教育との円滑な接続を図ります。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／八代市子ども・子育て支援事業計画



英語教育の様子



水遊びの様子

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）…

1. 健康な心と体、2. 自立心、3. 協同性、4. 道徳性・規範意識の芽生え、5. 社会生活との関わり、6. 思考力の芽生え、7. 自然との関わり・生命尊重、8. 数量・図形、文字等への関心・感覚、9. 言葉による伝え合い、10. 豊かな感性と表現

施策の方向

(2) 学校教育の充実

[現状]

- 英語教育の推進について、小学校では、2年間の先行実施と英語支援員のサポートにより小学校英語教育の早期化・教科化へのスムーズな移行につなげました。中学校においては、GTEC※(外部検定試験)を活用し、生徒の学力向上と教師の授業改善に向けた取組を進めました。
- いじめ・不登校の未然防止と解消のため、子どもたちの自己肯定感※を高め、認め合い支え合う集団づくりを実践しています。
- 健やかな体の育成のため、体力推進校を指定し、体力向上に向けた具体的取組へ体力向上推進アドバイザーからの指導助言を行うとともに、その取組を市内全学校に情報提供しました。
- 各学校・園の特別支援教育の充実に向け、特別支援教育アドバイザーによる訪問支援や相談事業、校内研修への支援事業等を行っています。
- 特別支援教育の推進については、学級数・在籍児童生徒数の全体的な増加に伴い、支援員の増員及び環境整備に努めるとともに、「八代市特別支援教育推進計画」の策定を行いました。また、特別支援教育コーディネーターを始め、担当する教職員の専門性の向上を目指し、研修の充実を図りました。
- 「小中一貫・連携教育」については、各中学校区で工夫した取組を行っています。
- 各学校・幼稚園ともに、文科省からの「衛生管理マニュアル」に沿って、感染防止対策を講じながら教育活動を行っています。



[課題]

- 新学習指導要領の全面实施※に伴い、自ら学び、考え、未来を切り拓いていく「考える力」の育成を目指した授業づくりを行う必要があります。また、学力向上に向けて、教員一人一人の授業力の向上や1人1台タブレット端末の効果的な活用を行う必要があります。
- 将来、国際社会で生きていくことができるよう、異文化を理解するとともに、語学力やコミュニケーション能力を育む必要があります。
- 子どもたちの学力の育成については、小中一貫教育を進めていくことや教員の更なる資質向上(授業力向上)が求められています。
- スクールカウンセラー※やスクールソーシャルワーカー※と連携した不登校の未然防止や早期対応が必要となっています。さらに、いじめの未然防止、早期の対応が求められます。
- 中学校の部活動は、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に基づき、休日の部活動を地域移行していく方向です。国や県の動向を見ながら、地域部活動の運営管理や人材・指導者の確保、費用負担等について、今後検討していく必要があります。
- 特別支援教育に関する相談件数が年々増加しています。
- 特別支援教育支援員の配置については、各学校の要望に対して十分な配置ができている状況に至っていません。要望に応えるために、状況を十分に把握し、特別支援教育支援員を適正に配置していく必要があります。
- 「中1ギャップ※」の解消等に向けて、さらに「小中一貫・連携教育」の取組の工夫・改善を図る必要があります。
- コロナ禍の中、教育活動の詳細について、多くの問い合わせがあります。今後も、リスクレベルに応じた対応について各学校・園へ説明を行う必要があります。

[施策の内容]

- 一人一人に応じた指導を行うとともに、授業のねらいを明確化し、子どもたちが主体的に取り組める授業、子ども同士の学び合いのある授業を展開します。また、児童生徒1人1台のタブレット端末を効果的に活用した授業を展開し、分かる授業づくりを進めます。
- 早期から段階に応じて英語に親しむ取組の推進を図るとともに、国際理解教育を通して異文化への興味・関心を高めます。また、小・中学校における教職員の指導力向上に向けた取組を推進します。
- 各学校で行うアンケート調査等を活用し、学級経営や総合的な子ども理解に活用することで、いじめ・不登校の未然防止に努めます。また、不登校児童生徒に対して、八代市適応指導教室※の充実を行うことで不登校の解消を目指します。
- 中学校部活動の運営においては、中学校部活動の指針「はばたけ、八代っ子」を順守し、学校や地域の特色を活かした適正で魅力ある部活動を推進するとともに、中学校部活動改革検討委員会を立ち上げ、令和5年度からの休日における部活動の地域移行を目指します。
- 各学校・園からの相談・依頼に応じて、特別支援教育アドバイザーが学校・園等を訪問し、助言や援助を行います。
- 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の能力や可能性を伸ばすため、特別支援連携協議会を設置し、総合的な支援体制の整備を目指します。また、インクルーシブ教育システム※構築のための特別支援教育を専門家チームや巡回相談員と連携しながら推進します。
- 義務教育9年間を見通した「小中一貫・連携教育」を充実させ、系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行うとともに、特色ある学校づくりを進めます。
- 感染症等に関する正しい知識を基に、児童生徒等の発達段階に応じて指導し、偏見や差別を未然に防ぎます。また、学校で新型コロナの感染者が発生した場合に速やかに対応できるように体制を整え、感染拡大を防ぎます。
- 学校の臨時休業等の非常時や不登校児童生徒の学習支援に対応できるよう、1人1台タブレット端末を活用し、オンライン授業の実施などICTを活用した学習を行い、子どもたちの学びの保障を行っていきます。
- 防災教育の充実や実践的な避難訓練などの実施により、マイタイムライン※の活用を行うなど自ら安全な行動がとれる子どもを育成します。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／八代市EdTech推進計画／八代市特別支援教育推進計画

※ GTEC…「Global Test of English Communication」の略。ベネッセコーポレーションが実施している英語検定。「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を測定。
※ 自己肯定感…「ありのままの自分を肯定する感覚」のこと。自己肯定感が高いと、①主体性がある、②行動や思考が前向き、③失敗を恐れない等の傾向がある。

※ 新学習指導要領の全面实施…小学校 2020 年度（令和2年度）、中学校 2021 年度（令和3年度）。

※ スクールカウンセラー…学校における「心の専門家」。児童生徒に対する相談のほか、保護者及び教職員に対する相談、教職員等への研修等の業務にあたる。

※ スクールソーシャルワーカー…教育の分野に加え、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する。児童の日常生活での悩みや学校でのいじめ、家庭内での虐待といった問題に対して、家族や学校の先生、関係機関と連携を取りながら解決のための支援を行う。

※ 中1ギャップ…小学校を卒業して中学校へ進学した際、これまでの小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじまず、授業についていけなくなったり、不登校やいじめが起こったりする現象のこと。

※ 適応指導教室…教育委員会が設置・運営する不登校児童生徒の学校復帰に向けた指導・支援を行う教育支援センター。

※ インクルーシブ教育システム…障がいの有無にかかわらず、全ての子どもが共に学ぶ仕組みのこと。

※ マイタイムライン…災害等に対し一人一人があらかじめ時系列で整理した防災行動計画のこと。

施策の方向

(3) 教職員の資質・指導力の向上

[現状]

- 学校・園訪問を行い、学校・園の課題等について指導・助言を行っています。
- 教職員の資質及び専門性の向上を図るため、教育的ニーズや教職員の経験年数に応じた研修を行っています。
- 教職員の長時間勤務を改善し、教職員の心身の健康保持促進やワーク・ライフ・バランスの充実等を目的とし、学校における働き方改革アクションプランを平成31年4月に策定しました。

[課題]

- ICT教育への対応、EdTech※の活用等、社会の時流に合わせた教育のあり方を検討する必要があります。
- 教職員の児童生徒用ICT活用の指導力については、教職員によって差があり、今後も指導力向上に向けた指導・助言を行っていく必要があります。
- 教職員が子どもたちと向き合う十分な時間を確保できるまでには至っていません。

[施策の内容]

- 学校のニーズに応じ、ICT授業サポーターを学校等に派遣し、ICTを活用した教育活動の充実を図ります。
- 教職員がタブレット端末や電子黒板などのICT機器を活用して子どもたちの興味を引きつけ、分かりやすい授業を行うとともに、児童生徒一人一人が学習の状況に応じてタブレット端末を活用することができるように、教職員の指導技術及び授業構想力の向上に取り組めます。
- 「学校における働き方改革アクションプラン」の実施により、教職員が子どもたちと向き合う時間を生み出し、より質の高い教育活動を展開するため、学校行事や会議・研修等の精選、業務のデジタル化の推進等に取り組み、教職員の業務の効率化を図ります。
- 学校・園訪問や校内・園内研修推進事業で、学校・園経営への助言や授業方法を指導することで、教職員の資質をはじめ、組織力・授業力の向上を図ります。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／八代市EdTech推進計画

※EdTech…Education（エデュケーション）とTechnology（テクノロジー）を組み合わせた造語であり、教育分野にテクノロジーの力を入れることで変革をもたらすことを意味する。

施策の方向

(4) 教育環境の整備・充実

[現状]

- 学校・園のニーズを把握し、幼児児童生徒の学びを多面的にサポートする学校支援職員等を配置しました。
- 国の「GIGAスクール構想※」に基づき、校内ネットワーク環境、児童生徒1人1台のタブレット端末などを整備し、授業においてICTを活用できる環境が更に充実しました。
- 学校規模適正化の推進に関しては、第2次計画に先行して、八代市立幼稚園の規模適正化等に着手し、令和4年2月に八代市立幼稚園規模適正化等審議会から答申を受けました。
- 経済的理由などにより、就学が困難な子どもたちがいます。
- 体育館、武道場の天井・照明器具などの非構造部材※の落下対策、コンクリートブロック塀の安全対策に取り組み、学校施設の耐震化や長寿命化を図るための計画的な改修を行っています。
- 避難所機能の強化・充実を図るため体育館トイレや屋外トイレへの手摺設置、段差解消等のバリアフリー改修、敷地内屋外照明設置等を実施しています。さらに普通教室等へのエアコン設置や学校施設のトイレ改修を行い教育環境の質的向上に努めています。
- 学校給食施設については、学校給食施設の再編を含めた整備方針について検討を重ね、学校給食施設再編整備方針※を策定しました。

[課題]

- 幼児児童生徒の学びを多面的にサポートする学校支援職員等の配置については、各学校・園からの配置要望は年々増加傾向にあります。
- ICT教育推進のため、更なるICT周辺機器の充実が必要となっています。また、オンライン授業実施に向けた家庭でのインターネット環境の整備等様々な課題についても検討・実施していく必要があります。
- 学校・園の規模適正化に努めることにより、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備を進める必要があります。
- 経済的困難を抱える家庭の子どもが学習機会等の確保ができるように支援が必要です。また、通学困難な子どもへの通学に対する支援も必要です。
- 学校施設は、65%以上が築30年以上を経過し老朽化が進んでおり、適切な維持管理が求められています。引き続き、耐震化や長寿命化、多様化する学習環境対応等の社会的要請に応えていく必要があります。
- 学校給食施設については、学校給食施設再編整備方針に従い、老朽化している施設の再編整備により、学校給食衛生管理基準※への対応、各施設の効率的な運営を図っていく必要があります。



タブレット端末を利用した授業の様子（ICT教育）

※ GIGA スクール構想…全国の児童生徒1人に1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文部科学省の取組。新型コロナの拡大を受け、計画が前倒しされ、全小中学校への導入が2020年度にほぼ完了。

※ 非構造部材…建物を構成する部材のうち、柱や梁、床などの建物を支える構造体以外の部材のこと。外壁や天井材、建具、ガラスなどの内外装材や照明器具などの設備機器がこれにあたる。

※ 学校給食施設再編整備方針…令和3年度に策定された本市の現給食施設の統合・再編の整備方針。

※ 学校給食衛生管理基準…学校給食法に基づき定められた学校給食の実施についての指針。

[施策の内容]

- 特別支援教育支援員や生徒指導支援員等の学校支援員等を学校・園のニーズに応じ配置し、子どもたちの学びを支える環境の整備を目指します。
- 令和4年3月に策定した「八代市EdTech推進計画」を踏まえ、推進体制の充実等を図り、教育の情報化推進のための環境をバランスよく整えます。
- ICT教育を推進するために特別教室や少人数教室への大型提示装置の導入を進めます。また、家庭でのインターネット環境の整備につながる情報教育啓発を図っていきます。
- 「八代市立学校規模適正化基本計画第2次計画」を策定し、学校の規模適正化に努めることにより、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備を進めます。また、八代市立幼稚園規模適正化等基本計画を策定し、効果的な幼稚園教育の実現を進めます。
- 経済格差などが教育格差につながらないように、就学への支援を行い、子どもたちの教育環境の安定を図ります。
- 子どもたちが安全・安心で快適な環境で学べるよう、学校施設の外壁等の非構造部材耐震化、老朽化した校舎の長寿命化改修、35人学級対応※、障がい者等へ配慮したバリアフリー化、トイレ洋式化等の衛生環境改善、照明LED化等を計画的に進めます。
- 安全で安心な給食の提供ができるよう再編整備計画の策定を行い、計画的に施設整備を進めるとともに、事業コストの削減や学校給食施設の管理運営形態の見直しを検討します。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／
八代市学校施設等整備保全計画／八代市EdTech推進計画／八代市学校給食施設再編整備方針



※ 35人学級対応…小学校の学級編成が令和3年度から令和7年度までに段階的に40人から35人へ引き下げられることに伴う、学級数増加への対応。

Yatsushiro city

【14】

学校・家庭・地域の協働と 青少年健全育成の推進

関連 SDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



施策の概要

子どもたちが健やかに成長できるよう、学校や家庭、地域、関係機関と連携し、地域環境の整備を進め、青少年※指導や相談事業に取り組んでいきます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
地域学校協働活動カバー率※	71.0%	100%
地域学校協働活動※ボランティア数	2,617 人	5,000 人
家庭教育について取り組んだ園・学校の割合	68.6% ※ R1	70.0%

※青少年…男女の性別を問わず、概ね 6 歳～ 18 歳までの年齢の者。

※地域学校協働活動カバー率…市内小・中・特別支援学校で地域学校協働活動を実践している割合のこと。

※地域学校協働活動…幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のこと。

施策の方向

(1) 学校・家庭・地域の協働

[現状]

- 学校においては、いじめや不登校、貧困などをはじめ子どもを取り巻く問題が複雑化・困難化しています。
- 家庭においては、核家族化や少子化、地域における地縁的なつながりが希薄化しています。
- 地域においては、人々が集う機会が減少し、互いに支え合う意識や、学校や地域活動への参加意識が弱まるなど、地域の教育力の低下を招いています。
- 八代市地域学校協働本部を中心とした地域学校協働活動を全ての小・中・特別支援学校にて推進しています。

[課題]

- 学校や地域の様々なニーズに対応する人材の確保とそのための事業の周知が必要となります。
- 核家族化や地縁的なつながりの希薄化により、家庭における教育力が低下しています。
- 地域で子育て・教育を行うために、コミュニティ・スクール※を推進することが求められています。

[施策の内容]

- 幅広い地域住民等の参画により、学校と地域が連携・協働して、「地域とともにある学校づくり」・「学校を核とした地域づくり」を目指していきます。推進に当たっては各学校に設置される「学校運営協議会」との連携を図ります。
- 地域学校協働活動の多様な人材を確保、育成するため、地域協議会や社会教育団体等と連携を図りながら、研修会等を実施します。
- 家庭教育学級※の開設促進及び支援等、家庭における教育力の向上を図ります。
- 令和4年度末を目途に、全ての八代市立学校・幼稚園において、コミュニティ・スクールの導入を図り、地域住民の参画を得て、学校と地域が一体となって子どもたちの学びや成長を支えます。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画

※コミュニティ・スクール…学校運営協議会を設置した学校のこと。(学校運営協議会とは、法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことをいう。)

※家庭教育学級…幼稚園・保育園、小学校などを拠点として、親同士が家庭における教育力向上のため、学びたいことを自ら企画し、計画的、持続的に行う活動のこと。

施策の方向

(2) 青少年健全育成

[現状]

- 青少年の健全育成と安全を守るという意識が地域に広がっていますが、青少年を取り巻く社会環境は絶えず変化しています。
- 繁華街や郊外型店舗等、青少年が立寄り易い場所が多く存在し、場合によっては犯罪や非行につながる事が考えられます。
- 社会環境の変化に伴い、友人や学校、家庭のことに悩みを持つ青少年や、子育てに悩みを持つ保護者が増えており相談内容は複雑化、深刻化しています。

[課題]

- 青少年を取り巻く社会環境の変化に対応していくため、学校・関係団体との連携をより強化する必要があります。
- 時勢に合わせ、青少年の立ち寄りそうな場所を巡回指導していく必要があります。
- 複雑化・深刻化している相談に対応していくため、青少年相談員のスキルアップを図るとともに、より相談しやすい環境を整備する必要があります。

[施策の内容]

- 青少年の健全育成とその意識啓発を図るため、学校・関係団体との連携を一層強化します。
- 八代市青少年指導員による巡回指導を効果的に行い、非行防止と地域の意識啓発を強化します。
- 青少年相談（ヤングテレホンやつしろ）の効果的運用を図るとともに、相談体制の充実に努めます。



青少年指導員総会の模様



青少年指導員巡回の模様

2

誰もが学べる生涯学習のまちづくり

Yatsushiro city

【15】

生涯学習の推進と環境整備

関連 SDGs



施策の概要

子どもから高齢者まで、生きがいを持ち、充実した生活を営めるよう、様々な生涯学習活動などを支援するとともに、人権尊重を基盤とし、誰もが生涯を通じて、多様な分野の学習に取り組める場や機会を提供します。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
公民館主催講座受講者満足度	94.5%	97.0%
リカレント教育※及びデジタル社会実現に向けた講座等の受講者数 (延べ人数)	94 人 ※ R1	540 人
博物館来館者満足度	94.0% ※ R1	94.0%
デジタル社会実現に向けた展示解説の配信	0 回	4 回

※リカレント教育…生涯にわたって繰り返し学び続けていくことであり、学校教育からいったん離れたあとも、キャリア形成や子育て中・子育て後の就労等、それぞれ必要なタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくための社会人の学びのこと。

施策の方向

(1) 生涯学習推進体制の整備

[現状]

- 生涯学習を取り巻く環境は、社会環境や生活環境の変化に伴い、多種多様化し、幅広く学習できる環境が求められています。
- アンケート調査等で市民の学習ニーズを把握しながら、公民館講座等、多様な学びの場や機会を提供しています。
- 野外体験活動などの青少年活動を通して、青少年の豊かな感性と健全な心身の育成を図っています。
- 図書館では、図書館サービスの充実などの市民サービスに対応するため、指定管理者制度を導入しています。
- 博物館では、特別展覧会や常設展などの展示活動、WEBを活用した情報提供や収蔵品検索、学芸員による講座の実施、学校教育と連携した教育活動等を行っています。また、松井文庫資料や干拓関係など本市の文化歴史に関する様々な調査を進めています。
- 新型コロナの影響により、活動の中止や施設の休館、利用制限などを行いました。

[課題]

- 人生100年時代を見据え、生涯を通じて必要な知識・技能の習得ができるような生涯学習の環境づくりが求められています。
- 新型コロナに対応した活動が必要となっています。
- 博物館では、より多くの市民や幅広い世代の関心に対応するため、多彩な展示・普及活動を展開する必要があります。



博物館で学習する子どもたち

[施策の内容]

- 市民の学習ニーズに応じ、幅広い世代が参加しやすい学びの場や機会を提供します。また、時代の変化に応じたスキルが学べるリカレント教育やデジタル社会に対応する学習活動等に取り組んでいきます。
- 新しい生活様式に対応した活動や施設の活用を行います。
- 集団活動や宿泊を伴う事業では、野外体験活動などの代替事業やプログラムの内容等を企画します。
- 図書館では、全ての市民が24時間いつでも、どこでも利用ができる電子図書の拡充を図ります。
- 博物館では、八代の歴史と文化への理解と愛着を育むため、関連資料を収集・調査研究し、情報機器等を活用しながら、分かりやすく内外に発信します。

■関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市立図書館運営方針／
八代市子ども読書活動推進計画

施策の方向

(2) 社会教育施設の整備・充実

[現状]

- 博物館、図書館、公民館等の社会教育施設については、現状に応じた適切な改修等により、維持管理に努めています。

[課題]

- 社会教育施設については、老朽化が進んでおり大規模な改修等が必要となっています。
- 博物館では、資料を適切に展示、調査研究、収集保管するため施設の環境維持に配慮する必要があります。

[施策の内容]

- 社会教育施設については、「八代市公共施設等総合管理計画」により、適正な維持管理を計画的に行っていきます。
- 博物館では、展示室や収蔵庫、作業室における温湿度や空気環境、スペースの確保など施設の環境保全に努めます。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市公共施設等総合管理計画



博物館 特別展示室



八代市立博物館未来の森ミュージアム（外観写真）

3

スポーツに親しむまちづくり

Yatsushiro city

【16】

スポーツ活動の推進と環境整備

関連 SDGs



施策の概要

市民一人一人が気軽にスポーツに親しむため、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境づくりに取り組みます。また、地域における生涯スポーツを推進し、スポーツに親しむ機会を提供するほか、競技スポーツのレベル向上や大規模スポーツ大会の開催、スポーツ合宿の招致によるスポーツ交流の拡充を通じてスポーツによるまちづくり、地域活性化に取り組みます。

■ 成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
全国規模のスポーツ大会が開催されるなど、競技スポーツが盛んであると感じる市民の割合	36.1% ※ R1	40.0%
ニュースポーツ道具の利用人数（累計）	10,958 人 ※ R1	12,000 人
全国大会の入賞者数（累計）	12 人 ※ R1	20 人
スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数	5,054 人 ※ R1	7,500 人

施策の方向

(1) 生涯スポーツの推進

[現状]

- 年齢、性別、能力、障がいの有無に関わらず、市民が日常生活における健康づくり、体力づくりとして、主体的にスポーツが行えるまちづくりを進めています。



ニュースポーツの普及活動の様子

[課題]

- 高齢化の進展と生活の利便性向上によって、日常的に体を動かす機会が減少しており、引き続き市民が自ら体を動かすことのできる環境づくりが必要となっています。
- ニュースポーツ道具の貸出しや普及活動については増加傾向にあります。一方で、普及活動が増加することで、スポーツ推進委員の個々の負担も増えており、定数に満たないスポーツ推進委員の確保が必要となっています。
- 障がい者がスポーツに親しむ環境や機会が少ない状況にあります。障がい者スポーツの競技人口拡大や環境整備に関し、福祉分野とスポーツ分野の連携が必要となっています。

[施策の内容]

- スポーツ推進委員の定数確保を図り、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツ等の普及活動を引き続き実施し、生涯スポーツの推進を図ります。
- ニュースポーツの普及及びスポーツ推進委員の派遣事業を広く周知するため、広報媒体を利用しPR活動を強化します。
- 障がい者団体との連携を図るなどニーズの把握に努め、障がいのある人がスポーツを楽しむ環境づくりを進めます。

■関連計画

八代市スポーツ振興計画／八代市公共施設等総合管理計画／八代市教育大綱



施策の方向

(2) 地域スポーツの推進

[現状]

- 各校区体育協会や総合型地域スポーツクラブにおいて、子どもから高齢者まで年齢・レベルに関係なく、市民が主体的・自主的に様々なスポーツに取り組んでいます。
- 市民が主体的にスポーツ活動を行えるよう、各競技団体による強化練習や指導者講習会の実施、市民体育祭や校区対抗駅伝競走を開催しています。

[課題]

- 市民が日常的にスポーツを行える地域づくりが必要です。



八代フルマラソンの様子

[施策の内容]

- 誰もが、スポーツに親しむことができるよう、各校区体育協会やスポーツ推進委員会を中心に、地域に根差したスポーツ活動の拠点づくりを推進します。

■ 関連計画

八代市スポーツ振興計画／八代市公共施設等総合管理計画／八代市教育大綱



校区対抗駅伝



市民体育祭の様子

施策の方向

(3) 競技スポーツの推進

[現状]

- 関係団体と連携し、競技人口拡大や競技力向上に資する取組を実施しています。
- 大規模スポーツ大会の開催及び新規大会、スポーツ合宿の誘致を行い、スポーツの振興を進めるとともに、交流人口の拡大を図っています。

[課題]

- スポーツ大会等を招致するに当たり、自治体間での競争も激化しており、会場となる施設の確保も困難な状況となっています。
- 競技力は一定の向上が見られる一方で、国際大会等で活躍できる選手の育成のため更なる競技力強化が必要となります。
- 合宿主催者全てのニーズに応じた施設の提供が十分にできていないため、市内にある施設の現状を鑑み、対象を絞るなど誘致のあり方を検討する必要があります。

[施策の内容]

- 八代市スポーツコミッションを中心に、新たなスポーツ大会、スポーツ合宿の誘致を進めるとともに、受入れ体制の整備を図ります。
- NPO法人八代市体育協会や各種競技団体と連携し、国際大会等で活躍できる本市の選手を育成します。
- シニア層をターゲットとし、平日でも開催できる大会の創設や誘致を行います。
- 受入れ施設の環境整備や学校施設等を活用した高校生の合宿受入れを進めます。

■ 関連計画

八代市スポーツ振興計画／八代市公共施設等総合管理計画／八代市教育大綱



強化選手指定証交付式



九州シニアソフトボール大会



卓球男子ホープスナショナルチーム合宿の様子

施策の方向

(4) スポーツ施設の整備・充実

[現状]

- 市民が身近に利用できる施設から、全国大会規模のスポーツ大会が開催可能な施設まで、様々なスポーツ施設の整備を進めるとともに、適切な管理運営を行っています。

[課題]

- 各施設とも、老朽化が著しく突発修繕等が増えてくる見込みです。施設利用者が安全に、安心して利用できる環境を作るために、計画的な維持管理を行う必要があります。

[施策の内容]

- ナイター設備を含む照明設備のLED化に向けて、全施設の調査を行い、計画的な更新を進めます。
- 施設の老朽化に対応するため、スポーツ施設の計画的な修繕工事及び維持管理を行っていきます。

■関連計画

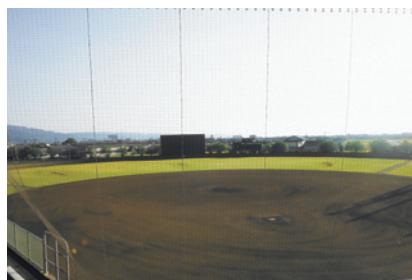
八代市スポーツ振興計画／八代市公共施設等総合管理計画／八代市教育大綱



トヨオカ地建アリーナ



八代市球技場



八代市民球場

4

郷土の文化・伝統に親しむまちづくり

Yatsushiro city

【17】

歴史文化遺産の保存・活用と 文化芸術活動の推進

関連 SDGs



施策の概要

特色ある伝統文化の保存・活用を図るため、歴史資料、史跡、建造物、伝統行事などの有形無形の貴重な文化財の保存・整備、継承、公開・活用を進めます。また、音楽、演劇、絵画などの様々な文化芸術の発表の場や鑑賞機会の提供・充実を図ります。

■ 成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
歴史文化遺産が保存・活用されていると感じる市民の割合	-	38.0%
文化芸術に触れ、親しむことができる環境が整っていると感じる市民の割合	-	32.0%
八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）の入館者数（累計）	-	60,000 人

施策の方向

(1) 多様な歴史文化遺産の保存・継承と活用

[現状]

- 八代妙見祭をはじめ、市内各地の民俗文化財の保存・継承、情報発信に繋げるための施設「八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）」が完成し、交流の促進と文化財の保護を進めています。
- 市民、関係団体、行政が協働しながら、ユネスコ無形文化遺産登録を受けた八代妙見祭の保存・継承、情報発信を行っています。
- 各地に分布するめがね橋や干拓樋門、無形民俗文化財を繋げるストーリーが、「八代を創造（たがや）した石工たちの軌跡」として、令和2年6月に日本遺産に認定されました。

[課題]

- 指定文化財を、所有者と連携して適正に保護していくとともに、後継者の育成等の各種取組（体験事業や世代間・地域間の交流）を充実させていくことが必要です。
- 少子高齢化やコロナ禍の中でも、本市の歴史文化遺産をいかに保存・継承し活用していくかが今後の課題となっています。
- 保存・継承のための文化財所有者の人的・経済的負担が増加しています。

[施策の内容]

- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする市内各地の民俗文化財の保存・継承と、情報発信を行う「お祭りでんでん館」を活用し、郷土学習や後継者育成を図る取組を進めます。
- 令和4年に築城400年を迎える八代城跡を中心とする歴史・文化ゾーンの保存・活用の取組や、関係団体との連携による文化遺産の情報発信を行い、認知度を高める取組を進めます。
- 日本遺産「八代を創造（たがや）した石工たちの軌跡」の認定ストーリーに沿った地域の歴史文化遺産を保存・継承するための諸調査や、市内外への情報発信の取組を進めます。
- 文化財所有者と連携して後継者育成の取組を進めるとともに、文化財修復に際しての各種の補助・助成制度のより一層の周知を行います。

■ 関連計画

八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画／八代市歴史文化基本構想



ユネスコ無形文化遺産八代妙見祭の様子



お祭りでんでん館 外観



日本遺産構成文化財（笠松橋）

施策の方向

(2) 文化芸術活動の推進

[現状]

- 八代市文化祭を開催するとともに、まちの先生派遣事業を実施し、市民や子どもたちが広く文化芸術活動に参加できる環境を整えています。
- 市民が文化芸術に触れることができるよう自主文化事業によるコンサート、演劇、講演会等を開催しています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による休館等の影響もあり、自主文化事業の開催が減少しており、その対策として映像配信事業など新たな事業を展開しています。
- 博物館では、市民の文化創生への一助となるよう、魅力ある展覧会の開催や文化芸術団体の発表の場の提供などを行っています。

[課題]

- 文化祭の参加者（参加団体）数、入場者数が伸び悩んでいます。市民の文化離れや文化芸術活動の振興が滞ることのないよう、市民が文化芸術活動にもっと積極的に関わっていくことができる取組を考えていく必要があります。
- 博物館では、感染症の影響による展覧会の中止や貸会場の利用制限のため、博物館利用者の減少が見られます。



八代市文化祭の様子

[施策の内容]

- 八代市文化祭や文化団体などが開催する自主的な文化事業を進めるとともに、文化芸術の担い手の育成を図る取組を進めます。
- 魅力的なコンサートや演劇、講演会など自主文化事業等の更なる充実を図ることで、本市の文化水準の向上を目指すとともに、市民の文化芸術活動に対し、発表と鑑賞の場を提供します。
- 博物館では、文化庁による重要文化財公開承認施設※としての優位性を活かし、全国水準の文化財・芸術作品を鑑賞する機会を市民に提供するとともに、貸会場の利用しやすい環境づくりや、安心して利用できる施設の運営に努めます。

■ 関連計画

八代市文化振興計画／八代市教育大綱／八代市教育振興基本計画

※重要文化財公開承認施設…博物館や美術館などの国宝・重要文化財の所有者（管理団体を含む）以外の者が、当該文化財を公開しようとする場合、文化庁長官の許可が必要となるが、文化財の公開活用の観点から、文化財の公開に適した施設として、あらかじめ文化庁長官の承認を受けた場合、公開後の届出で足りることとされている施設。

施策の方向

(3) 文化施設の整備・充実

[現状]

- 鏡文化センターは、建築から20年以上経過し、設備の老朽化が目立っており、吊り天井をはじめ、空調設備等の計画的な改修が必要となっています。
- 厚生会館については、新たな利活用策について検討を行っています。

[課題]

- 文化施設は、突発事故等の発生を防ぎ、利用者の安全性を確保するため、必要に応じた適切な改修が早期に必要となっていますが、文化施設の整備には、多くの経費と時間を要するため、予算や施設の状態等を考慮し、計画的な改修を行う必要があります。

[施策の内容]

- 安全基準への対応や更新時期を迎えた設備の整備・改修を計画的に行い、利用者の安全性・快適性の確保と満足度の向上を図るとともに、施設の長寿命化を図ります。

■ 関連計画

八代市公共施設等総合管理計画／八代市教育大綱／八代市文化振興計画



鏡文化センター 外観



八代市厚生会館 外観